

15

佐久間象山と沓野日記

沓野日記は1848年(嘉永元年)、佐久間象山が松代藩士として、藩領の沓野、佐野、湯田中の三村の利用係として赴任した時に書いた日記です。

象山は日記の日付の後に、「朝76度(摂氏24度)…」と気温を華氏と摂氏で書くなど進んだ西洋科学を身に着けています。岩菅山登山では大いに感激しています。

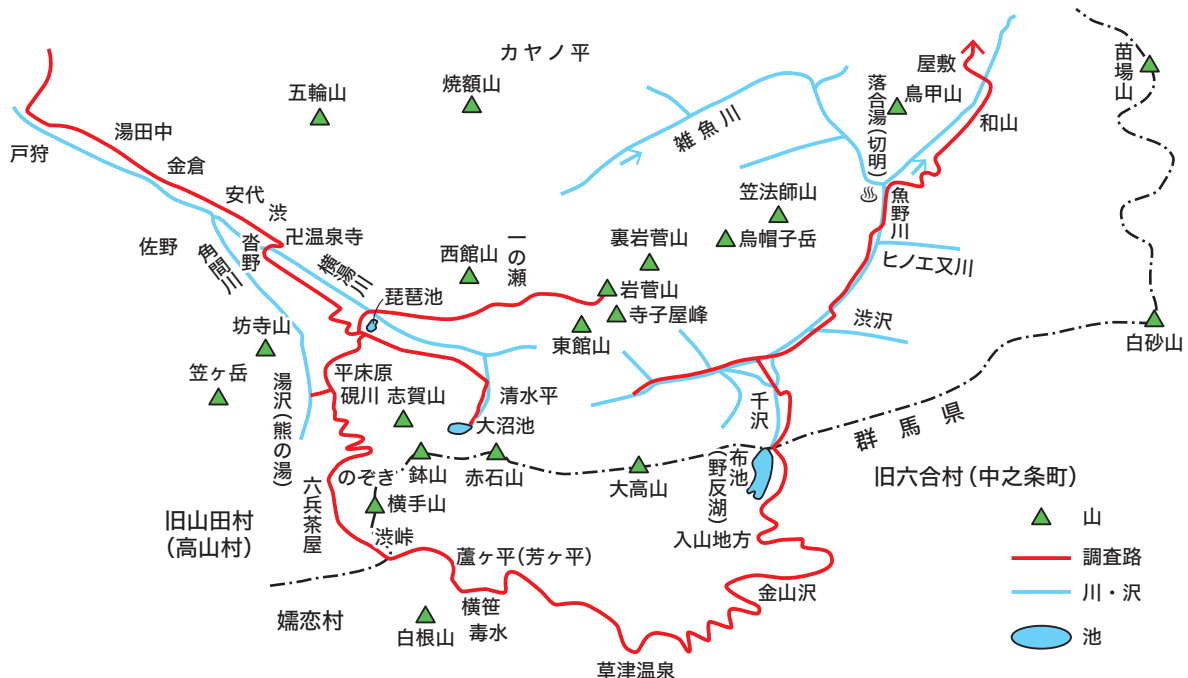
象山は湯田中から秋山郷へ資源調査を行いました。温泉寺を出発し、沓打、一沼、平床、硯川と進みました。硯川では溪流の中に温泉が湧出しているのを見て、流れを移して湧出する温泉を独立させ、「いい湯治場になるだろう」と語っています。

横笹を過ぎた所で「毒水」の表示のある水を口に含み、硫酸が水に混じっていると考察しています。草津から野反湖、千沢を経て魚野川をさかのぼって鉱石を探しました。銅が出るという所では採集したサンプルを見て硫化鉄の類で銅は採れないと判断しています。

調査前年の1847年(弘化4年)に起きた善光寺地震により山崩れが起き、川の流れがせき止められた場所ではすぐに図を作成し、温泉宿の主人にお金を渡し工事にとりかからせました。このことから、地名が湯本から切明になったといわれています。



佐久間象山(真田宝物館提供)



佐久間象山が調査したルート(概念図)

「信濃の国」の歌にも出てくる佐久間象山は、西洋の知識が豊富だったんだね。



今でも「象山杉」と呼ばれる杉林があったり、“ぞうざん”と親しみをこめて呼んだり山ノ内町と象山は関係が深いね。

